



金塊形のフィナンシエ

欧州で存在感を増すパリ金融市場

パリ近郊の金融集積地ラ・デファンスにある証券取引所ユーロネクスト・パリが欧州で存在感を増している。昨年には、上場企業の時価総額でパリ市場はロンドン市場を上回り欧州で首位になった。特徴として、時価総額の大きい高級ブランドグループが上場していることが挙げられる。

変化は株式市場だけではない。英国にあった欧州銀行監督機構もブレグジット（英国の欧州連合離脱）でフランスに移転した。今では、欧州証券市場監督機構とともに、金融分野の欧州3監督機関のうち2つが当地にある（残る欧州保険・企業年金監督機構はフランクフルトに所在）。

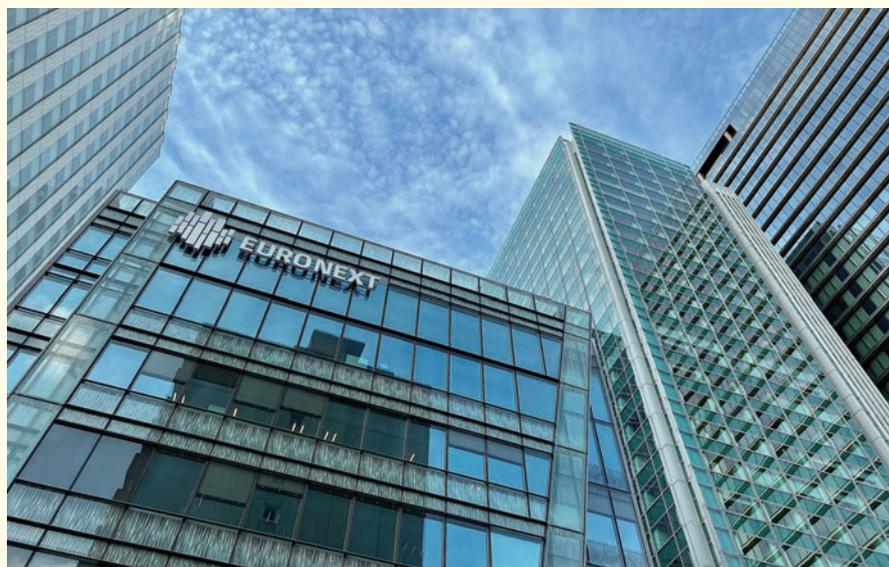
また、このような中で、外国金融機関ではトレーダーを中心に、フランスにおける拠点の人員を拡充する動きがみられている。その背景には、高等教育の充実や食を含む文化面など、パリという都市が魅力を有していることから、人材の確保が他国比容易ということもあるようだ。なお、食文化などで都市

に魅力があるという特徴は、同じく非英語圏の金融集積地である東京と重なる部分があるようにも思われる。

金融の話題に関連して、フランス菓子の一種で有名なフィナンシエについても言及したい。仏語のフィナンシエ（financier）は英語のファイナンス（finance）と似ていることからわかるように、金融家、金塊、お金持ち等の意味も有する。このお菓子がなぜフィナンシエという名になったかという、一説では、19世紀、パリ証券取引所付近に店を設けていたパティシエの知恵に辿り着くという。近所の多忙な金融関係者に喜んでもらうため、元々丸かったお菓子を小さな金塊形にアレンジし、指先を汚すことなく食べられるように工夫した結果、フィナンシエという名で世界中に広まったという話である。

食などの文化と金融は互いを育み発展させる関係にあるのかもしれない。（日本銀行パリ事務所）

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



金融集積地に所在するユーロネクスト・パリ